

直接聖人の遺文そのものに依てその眞偽を裁斷し、その眞面目を領解し、その歸趣を定めんと欲する要求を生ずる事も亦自ら止むを得ない勢ひであらう、本書は全くその要求に基いて編せられたものである、全巻を別つこと五編、總要、聖傳、人格、教義、教團。更に章節項目を設くる事可なり詳密。遺文の取要抜粹、類纂組織に於ても亦抄からざる努力の結果が現はれて居る、眞日蓮義初學入門の書として恰好の編著であらう、又廣博なる聖人の遺文に對する簡便な索引的要素としても相當の成功が收められて居る様である。併し唯編者所依の遺文が依然「廣義」のものである事は本書の性質や編者の目的などから見て何だか物足りなく感ずるがこれは理か否か。(東京新日蓮主義社發行、定價八十錢、菊版三一六頁)(木田義英)

古代より 西洋哲學史

フランク、シルリー氏原著
現代まで 文學士 若守義孝譯述

原著者フランク、シルリーはシンシナチ大卒業後ベルリン、ハイデルベルヒの二大學に學び、歸米後、ミッスーリ大學の哲學教授、プリンストン大學の心理學教授を経て、千九百六年、コーネル大學の哲學教授となり、遂に今日に及んで居る。氏の著述として Leinglitz's Controversy with Lock (1891) An introduction to Ethics (1900) 翻譯として Paulsen's introduction to Philosophy (1888) Weber's History of Philosophy (1896) Paulsen's system of Ethics (1899) 等がある。而して A History of Philosophy (1914) は最近に現はれた氏の著述であつて、之即本譯書のオリエントである。

原書は約六百頁の大冊。古代希臘哲學の發端より説き起して最近の哲學界の趨勢に迄及んで居る。行文流暢比較的易解であつて哲學思想の論述に當つては、常に其背景たる時代人文に注意し哲學思想の歴史的發展は、變て或意味に於て哲學思想其者の自己批判の有機的開展であるとして、各時代の哲學思想の有する意義及價値を闡明すると共に、夫等學說相互の關係を明瞭ならしめんとする。即著者は出來得る限り自己の主觀を投入する事を避け、哲學者をして夫々最も純なる自己を語らしむると共に、彼等が全哲學史に於て占むる位置、有する意義を明ならしめんとするのであつて著者はかゝる研究法を *historico-critical method* と名けて居る。かるが故に精細なる専門的知識は此處に求むべからざるも、哲學史の一般的知識殊に哲學思想の發展の徑路を有機的に理解せんとする初學者に取りて、甚だ便利な書物であると思ふ。殊に原著は、各哲學者自身の著述は勿論、其英譯及其研究に必要な關係書目を挙げ、最後には索引を附してあるから、更に進んで研究せんとするものに取つても甚だ好都合である。

若守文學士の譯文は翻譯臭味を脱して居ると云ふ點に於て遺憾はないが、行文稍冗調にして生氣乏しく、八百余頁の大冊一氣に讀破せしむるの魅力を缺く、譯者自ら斷つて居られるやうに、逐語的に譯するのではなく、成るべく簡單に其本旨を譯述せんとせられたのであるならば、今少し文章に注意を拂ひ得る餘地が無かつたであらうか。最も遺憾に思つたのは、固有名詞の讀方の甚だ杜撰なことである。例へば *Leonard da Vinci* の *Vinci* を *ヴァンシ* と讀み *Pierre dailly* を *ピエール* と讀むが如きは其例であるが、

かくの如き例は決して尠少ではない。又本譯書は初學者に對する手引として西洋哲學史の一般的知識を與ふる爲に譯出せられた爲でもあらうが、プラト、カントの著述及シェリングの二三の著を擧げて居るのみで其他の哲學者の著述は一切省略してあるのは何だか物足らぬ。原書之如く英譯書其他研究に要する關係書目迄も列擧するの親切はなくとも、宛に角哲學史に一章を分け與へらる程の哲學者の著述の名位は擧げて欲しかつた。併しかく云へばとて、譯者の此大冊を翻譯するに當つて拂はれた努力と努力に對して、敬意を忘れやうとするものでは勿論ない。又本譯書が唯一の目的とする所のものを、高き程度に於て實現して居ると云ふ事を認むるに吝なるものでもない。近來此種の譯著の少からざる時に當つて、本書亦其有する特色を以て、多くの讀者を牽引するこゝとであらう。東京市京橋區南傳馬町二、日黒書店發行。定價二圓五拾錢、(岡野留次郎)

寄贈書籍雜誌

精神科學の基本問題 文學士 上野直照 岩波書店
 ワオードの社會學 アスタアオ 藤森達三譯 巖松堂書店
 西洋哲學史 フラレーンク シルリイ著 文學士 若守義孝譯 日黒書店
 哲學雜誌、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、第三帝國、早稻田文學、學校教育、内外教育評論、普通教育、小學研究、教育研究、教育界、奈良縣教育、滋賀縣教育會雜誌、愛知教育雜誌、新思潮
 都市教育、岐阜教育

前號目次

視覺に於ける右利左利 文學士 黒田源次
 基督教に於ける神の内存在觀 オプアーツ 日野眞澄
 白覺に於ける直觀と反省(承前) 文學博士 西田幾多郎
 フイヒテの宗教哲學の發展(完結) 文學博士 朝永三郎
 シャンカラの眞智に關する思想に就て 文學士 本田義英
 彙報—新著紹介